



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012 年度 RI テーマ

RI 会長 カルヤン・パネルジー

地区ガバナー 大澤 徳平



# 海南東ロータリークラブ

## ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

## 第 1692 回例会

平成 24 年 2 月 20 日(月)

12:30～ 海南商工会議所 4F

ゲスト卓話 海南警察署長 江南 拓哉 様

### 1. 開会点鐘

### 2. ロータリーソング

「手にてつないで」

### 3. ゲスト紹介

海南警察署長 江南 拓哉 様

### 4. 出席報告

会員総数 59 名 出席者数 39 名

出席率 66.10% 前回修正出席率 72.88%

### 5. 会長スピーチ

会長 田村 健治 君

みなさん、こんにちは。

昨日の毎日新聞に出ていましたが、一昨日の土曜日、和歌山ビッグ愛で地区 1 組の Intercity Meeting が開催され、あの有名な「稲村の火の館」の館長さんが「浜口御陵と津波防災」と題して基調講演を行いました。東日本大震災で小中学生の多くが助かった岩手県釜石市の例を挙げ、「堤防などのハード面に頼るのではなく、防災意識や避難訓練などのソフト面も充実させるべき」と述べました。また全体会議で、「災害に備えて RC ができること」をテーマに提言などを発表しました。我々 2 組はどんなテーマになるのでしょうかね。



今日の話は、エネルギー問題と共に今後益々深刻化が予想される食糧問題、とりわけ「食の安全」についてです。一昔前までは、遺伝子というものは生まれながらに決まっている運命的なもので、それを人工的に換えること等は想像も出来ませんでした。それが今では操作することが可能になり、医療の世界では、遺伝子治療やクローン人間等の研究が進んでいます。

現在、日本の食糧自給率は 39%。すでに日本の食糧の多くが輸入されていることは周知の事実ですが、先月から遺伝子組み換えパパイアの輸入が解禁になっていることはご存知でしょうか。いわゆる飼料用としてではなく、直接人が口にする物では初めての遺伝子組み換え作物になります。しかし、これらの作物につ

いて様々な議論がなされているものの、一番身近なはずの私たち消費者のもとにまでその情報の多くは届いていません。

世界では、遺伝子組み換え作物は年々増加の一途を辿っています。日本においては、95%を輸入に頼っているダイズを例に挙げると、主な輸入元の米国におけるダイズ栽培面積当りの遺伝子組み換えダイズの割合は 93%と、生産されるほとんどのダイズがこれらのダイズであることがわかります。ちなみに、トウモロコシの場合は遺伝子組み換えトウモロコシが 86%を占めます。日本は世界最大のトウモロコシ輸入国であり、そのうち 90%が米国産。つまり、日本の飼料用の穀物はほぼ全量がこれらの作物であるといっても過言ではないのです。これらの作物は、乾燥や塩害など不良環境でも栽培できる作物、害虫や特定除草剤に抵抗性を持つ作物として大きな期待が寄せられています。現在、すでに 10 億人以上の人々が栄養不足や飢餓状態にあること、さらに、人口増や食生活の高水準化などに伴い食糧問題がますます深刻化すると予測されていることが、期待への主な背景です。一方、これらの作物を食品として食べ続けても大丈夫かと子や孫など将来世代への影響が計り知れない点、また、これらの作物がその繁殖力の強さなどにより、既存作物の生態系を壊してしまうのではといった点など、長期的な問題による不安が拭い去れないといった懸念が存在しています。

現状としては、これらの作物が世界的に増加傾向にあるということ、そして今後、パパイアのような遺伝子組み換え作物が日本に輸入されてくる可能性が高いことには変わりはないでしょう。今話題の TPP 条約に加盟した場合、これらの作物に対する日本の安全基準や規制が通用しないといった問題が発生すること考えられます。すでに海外では、イネやコムギの開発も進められているのです。よく知らない。聞いたことがないでは済まされない、新たな食の安全を考える時代に突入しているのではないのでしょうか。

### 6. 幹事報告

幹事 山畑 弥生 君

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山東南 RC 3 月 7 日(水)→3 月 9 日(金)

18:30～ アバローム紀の国

(和歌山南 RC との合同例会)

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長: 田村 健治 幹事: 山畑 弥生 SAA: 岩井 克次

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail: [info@kainaneast-rc.jp](mailto:info@kainaneast-rc.jp)







国際ロータリー  
ニュース

ロータリー平和フェロー



昨年には、ジュネーブにある国連調査委員会の法律顧問として、シリアでの非人道的行為の調査に当たりました。現在はロンドンに暮らす彼女ですが、拷問のケースファイルを見たときのショックなど、心の痛みを今も拭い去ることができないそうです。「今はこの平穏な日常をかみしめたい」と話す彼女は、フリータイムに自宅近くの閑静で愛犬との散歩を楽しんでいます。デル・メーズさんは、世界各地の有名大学に設置されたロータリー平和センターで平和と紛争解決について学んだ 600 人以上の平和フェローの一人です。今年は、平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー・センターの創設 10 周年にあたります。現・元ロータリー平和フェロー、財団学友、ロータリアンは、バンコク（タイ）で開かれるロータリー世界平和シンポジウムに参加し、平和と紛争解決の分野に関する最新情報を学び、第一線で活躍する専門家の講演を聞くことができます。ロータリー学友行事と共に行われるシンポジウムは、2012 年 RI 国際大会の直前、5 月 3～5 日に開かれます。

## 次回例会

12:30～ 海南商工会議所 4F

## 會員卓話

中村 俊之 君 大江 久夫 君 大谷 徹 君



# כוכב • BOX

お忙しい中、江南署長にゲストとして来ていただきました。

日本海の雪を見てきました。

忙しくて欠席が続きました。

江南様、今日はよろしく願いいたします。歯科医師会の新年総会ご臨席ありがとうございました。

**2012年  
國際大會**

## “微笑みの国”タイ

バンコク

**参加者 募集中！**



## 2月は世界理解月間です

## 2012 年ポリオ・サミットをインドで開催



インド、ウッタラプラデシュ州で子供に予防接種を行うロータリアン。(写真提供: Allison Kwezell)

2月25日と26日、ニューデリーにて、インド保健厚生省と国際ロータリーの協力の下、2012年ポリオ・サミットが開催されます。インドは、2012年1月をもって、1年間のポリオ無発生を達成したばかりです。このサミットの目的は、人々の認識を高めてポリオ撲滅

への協力を促すこと、政府やその他の関係者からの力強いサポートを確保すること、定期的な予防接種を推進することです。さらに、現在もポリオ常在国となっているアフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンをはじめ、全世界でポリオを根絶するための方策が話し合われます。サミットには、政府要人、保健関係者、インドや周辺国のロータリアンなど1,000人以上が参加する予定となっており、さらに、国際ロータリー、世界保健機関（WHO）、ユニセフ、米国疾病対策センター、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団からもそれぞれの代表者が出席します。「ポリオ・サミットでは、政治や宗教の関係者からの協力だけでなく、企業や一般の人々からの支援も呼びかけることができます」とカルヤン・バネルジーRI会長は話します。サミットに先立つ2月19日には、海外から集まった200名以上のロータリアンがインドのロータリアンと協力し、全国予防接種日に参加しました。そのうち約半数のロータリアンが現地に残り、ポリオ・サミットに出席する予定です。サミット終了後の2月27日には、インド・ポリオ・プラス委員会が全国ポリオ・プラス・オリエンテーションと計画会議を実施し、ガバナー・エレクトと地区ポリオ・プラス委員長が参加します。

今回のサミットの議長を務めるラジェンドラ K. サブー元RI会長は、意気込みを次のように語ります。「インドではポリオ撲滅を達成できる日が間近に迫っています。インド、そして世界からポリオがなくなるまで、国際ロータリーは、この活動を率先して続けていきます」インドのグラーム・ナビ・アザード保健厚生大臣は、昨年9月に米国エバンストンのRI世界本部を訪れ、ロータリーのこれまでの貢献を称えました。「ロータリーは、資金面で大きく支援して下さっただけでなく、現場で積極的に活動に参加しています。わが国インドに対するロータリーからの支援に対し、感謝の気持ちでいっぱいです」

## ロータリー107周年を祝う

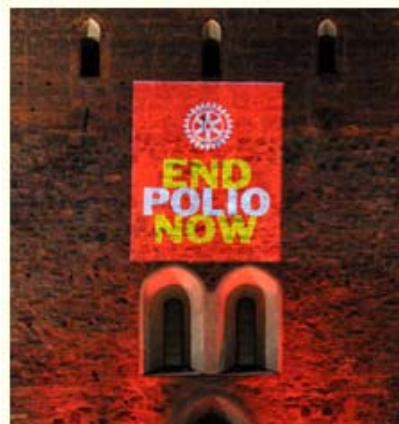
これまでロータリーは、最優先項目であるポリオ撲滅に向けて、大きく前進してきました。それを証明する例として、かつてポリオ感染の中心地であったイン

ドでは、今年1月の時点で、1年間ポリオ無発生という快挙が成し遂げられました。

2011年には世界全体で650件の感染が確認され、2010年の1,352件と比べて感染数が半減しています。ポリオ撲滅活動が開始された1988年当時、毎年35万人の子どものポリオ感染が確認されていましたが、122カ国で20億人以上の子どもの予防接種が提供されてきたおかげで、感染数は99%以上減少しました。こうした活動がなかったら、500万人が身体麻痺に苦しみ、25万の尊い命が失われていたと推計されています。また、ロータリーはこれまで、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団から寄せられた3億5,500万ドルの補助金に応えるために、2億ドルの募金チャレンジに取り組んでいましたが、今年1月、とうとう目標額に到達しました。ゲイツ財団は、ロータリーの達成を称え、さらに5,000万ドルを寄付しました。これら総額6億500万ドルの資金は、ポリオ常在国での予防接種活動の支援に充てられます。

「私たちは、今回の達成を祝うべきですが、これで募金やポリオへの認識向上運動を止めるわけではありません」と話すのは、ロータリー財団管理委員のジョン F. ジャーム氏です。「ポリオのない世界が証明されるまで、私たちは活動を続けていかなければなりません」

「END POLIO NOW（今こそポリオ撲滅のとき）」のロゴを投射するイベントは、2月の恒例行事となりました。今年も、多くのロータリー・クラブによって、世界中の有名建造物にポリオ撲滅のメッセージが照らし出されました。ロゴが投射された場所には、カラチのフレアホールとラホールのWAPDA政府ビル（パキスタン）、ロンドンタワ



ロータリーの創立記念日である2月23日の週、世界中の有名建造物に、ポリオ撲滅のメッセージ「END POLIO NOW」が投射されました。写真は、フィンランドのトゥルク大聖堂。

ー（英国）、台北の市庁舎（台湾）、メルボルンのフェデレーション・スクエア（オーストラリア）、イエズス会伝道所跡とクリティバのガリバルディ邸宅（ブラジル）などがあり、日本では、東京の六本木ヒルズで投射が行われました。

これらの投射行事は、「身体的自由を奪うポリオを世界から撲滅するという、ロータリーの誓いを世界に発信するもの」とであると、インド出身のカルヤン・バネルジーRI会長は説明します。「ここで活動をやめるわけにはいきません。ポリオのない世界を実現するまで、そして、ポリオの再流行を防ぐために、ロータリーとそのパートナーは、これからも子どもたちへの予防接種を続けていきます」